



希望のひかり

第51回

市が実現に向けて取り組んでいる国際リニアコライダー(以下、ILC)計画について最新情報をお届けします

今回は、ILC実現に向けた国などの最新情報および市議会ILC議連のILC看板設置についてお知らせします。

国などの最新情報

昨年11月に国際研究者コミュニティから公表されたILC計画の見直し(※)について科学的意義を検証する文部科学省の有識者会議内の作業部会が1月18日、同省で開催されました。作業部会では、欧州合同原子核研究機関(CERN)における実験の進捗状況やILC計画の見直し意義について意見が交わされました。高エネルギー加速器研究機構(KEK)の藤井恵介教授は「CERNでは新粒子の兆候は見えておらず、ILC

※整備延長を20ギからスタートし段階的に拡張するという計画で、初期コストを最大40ギ削減できる見込み。世界の加速器研究所の所長らで構成する国際将来加速器委員会(ICFA)で承認された

Cの重要度が高まった。ヒッグス粒子を大量に作って調べることが出来るILCでの精密測定こそ、素粒子物理学の進路を示すために最も重要だ」と強調しました。

また、1月8日から11日にかけて、超党派の国会議員による議員連盟を中心とした欧州訪問団がフランスとドイツを訪問。ILC計画実現に不可欠な国際協力体制を構築するため、両国の政府関係者らと意見交換を行っています。

市では、引き続き国の検討状況や国際情勢を注視するとともに、東北ILC準備室や

県などの関係団体と連携しながら、ILC実現に向けて全力で取り組みます。

ILC看板 市内各地に

ILC誘致に向けた機運を高めるため、市議会ILC誘致推進議員連盟(渡辺忠会長)は市内各地にILC看板(縦1・55m×横6m)を設置しました。看板には、設置場所の地元中学校などの生徒がデザインした絵を使用しています。



看板はそれぞれ衣川保健福祉センター前(上段左)、江刺区藤里地内(上段右)、前沢中学校(中段左)、江刺区玉里地内(中段右)、胆沢総合支所(下段)に設置

おうしゅうヒッグスくん ILC 絵画コンクール 市内入賞作品紹介



【高学年の部】
佳作
 岩手の自然と岩手の科学
 田んぼ ILC
 水沢小学校4年 高橋 晴斗くん
 「岩手の自然と岩手の科学」岩手で守っていききたいものと発展させていききたいものを描きました。

【佳作】
 奥州市から未来へ ILC
 衣川小学校4年 高橋 千裕さん
 「奥州市から未来へ ILC」光りの筋を目立つようにしました。

【佳作】
 宇宙のはじまりへ ILC
 衣里小学校6年 小野寺 ウンセンさん
 「宇宙のはじまりへ ILC」いろいろな色でカラフルにしました。

本コーナーでは、ILC計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽に「質問ください。」問い合わせ先は本庁ILC推進室(内線415、TEL 2553、E-MAIL: ic@city.oshu.lwate.jp)

祝 百歳おめでとう

市は、12月と1月に満百歳を迎えた5人に記念品を贈り、長寿を祝いました。

千葉ヤシエさん 衣川区古戸IIは同区山岸に生まれ、23歳で故・安雄さんと結婚。2男1女をもうけ、現在は孫5人、ひ孫4人に恵まれています。衣川村役場に勤めていた夫を支え、農業に精を出しました。キノコや山菜採りが好きで、90歳過ぎまで続けた山歩きが長生きの秘訣ではないかと長男の伴申さん(76)は振り返ります。穏やかな性格なヤシエさんは現在入所す



記念品を受け取り記念撮影するヤシエさん

る施設で、入所者の聞き役になったり、職員の癒しになっています。伴申さんは「これからもますます長生きしてほしい」と長寿を祝いました。



本城清水沢総合支所長から記念品を受け取る雪子さん

伊達雪子さん 水沢区上姉体二丁目IIは宮城県松島町に生まれ、22歳で故・真策さんと結婚。1男2女を育て、現在は孫8人、ひ孫3人に恵まれています。子どもに家庭教師をつけたり、学区を変えるために引っ越ししたりと教育熱心だった雪子さん。夫を早くに亡くし苦労の中でも、大病なく暮らしてきました。

菊池アエさん 江刺区玉里字上上野IIは同区岩谷堂に生まれ、21歳で故・一夫さんと結婚。1男2女をもうけ、現在は孫6人、ひ孫5人に恵まれています。結婚後は東京で暮らし、戦火を避けて夫の実家の玉里へ疎開。戦死した夫に代わり、女手一つで子どもたちを育てました。



新潟市からお祝いに駆け付けた娘夫婦と記念撮影するアエさん

骨折して施設に入所しましたが、今も車いすの乗り降りは自分で行うアエさん。趣

味のドラマ鑑賞や漢字パズルなどをして過ごしています。長女の伊佐子さん(78)は「商家の生まれで、不慣れな農業に苦労していた」と母の姿を思い出していました。



千葉有胆沢総合支所長から記念品を受け取るサヨさん

脇坂サヨさん 胆沢区南都田字加賀谷地IIは金ヶ崎町に生まれ、20歳で故・富之進さんと結婚。製鉄所に勤める夫と釜石市や北海道室蘭市で暮らしていましたが、戦況の悪化に伴い夫の出身地である胆沢区へ疎開。その後は農業をしながら家を守ってきました。

網膜剥離で目が見えませんが、ベッドに正座して自分で食事を取り、月に一度訪れるおいの永山克男さんと思い出話をして楽しみます。永山さんは「大変な時代を生きてき

て、人一倍頑張ったと思う」とねぎらい、入所施設の職員や入所者と長寿を祝いました。

高村ノブさん 水沢区字見分森IIは盛岡市に生まれ、27歳ごろに故・与三郎さんと結婚。2男2女をもうけ、現在は孫7人、ひ孫5人に恵まれています。40歳ごろに夫を亡くすも、南部せんべいを焼く職人をして、子どもたちを育てました。

編み物が好きで、子どもに服も編んだというノブさん。自分で車いすを動かし、施設内の観音様へお参りするのを習慣にしています。長女の紀子さん(71)は「腹八分目を守ってきたから長生きできた。苦労した分、穏やかに過ごしてほしい」と語りました。



施設職員手作りのくす玉に笑顔のノブさん